

## 医療・介護の大運動と春闘と選挙をひとつに結んで 1・29春の学習決起集会に151人



1月29日、埼玉教育会館で「春の学習決起集会」を開催（社保協主催）し、全县から151人が参加しました。安全・安心の介護・医療の実現に向けた大運動、地域春闘、いっせい地方選勝利をひとつに結ぼうと取り組まれたこの集会では、全労連の井上久事務局長を講師に招き、学習・交流をおこないました。（講演の主旨は4面です。）



市村聡子さん

主催者を代表して原富悟副会長は、1995年に出された政府の社会保障審議会第3次勧告に触れ、以来、新自由主義と自己責任を基調とした政策がすすめられてきたことから「賃金闘争と社会保障闘争は一体のもの」と訴えました。川嶋芳男事務局長の「春の運動の呼びかけ」（別紙）を受け、3人の仲間から決意表明がおこなわれました。

市村聡子さん（医療生協・老健みぬま看護長）は、介護報酬の大幅引き下げが、事業そのものの継続の困難につながることや利用者にとっても制限が厳しくなることなど指摘。昨年10月から続けてきた介護ウェーブ（駅頭宣伝や署名活動等）の取り組みを広げ、住民・利用者の声を届け改善させていきたいと発言しました。小石治男さん（富士見市社会保障を良くする会・会長）は会員



小石治男さん

の中には10人の医師・歯科医師もいて、地域の医師会会長を講師に学習会を成功させた経験や、会報の手渡し活動、定例駅頭宣伝などを報告。前島秀男さん（さいたま地区労・議長）は、家族の介護を通じて介護労働現場を垣間見ることで、労働組合としても社会保障闘争に連帯して運動をしていきたいと決意を表明しました。



前島秀男さん

(埼玉土建 上菌晃勇)

### 新しい常任委員が決まりました

第23回総会後、初めての運営委員会が1月22日に開催され、1年間の運動の流れ、春の大運動の具体化とともに、下記のように新しい常任委員を確認しました。

加藤 ユリ	新婦人
柳田 雅久	埼玉連
國松 公造	障埼玉連
金子 貴美子	保問協
鈴木 照子	公団自治協
高橋 正巳	医療生協・民医連
大橋 秀光	日本共産党県委員会
佐々木 長	年金者組合
今井 健	自治労連
北村 純一	埼玉教組
藤田 省吾	医労連
荒川 常男	さいたま市社会保障推進協議会
庄野 拓男	富士見市社会保障をよくする会

### 第1回常任委員会を次のように開きます。

日時 2月12日(木)、14:00開会  
会場 埼玉教育会館301会議室  
内容 春の大運動について  
自治体キャラバンについて  
その他

## 所得が低いから子ども園に入れない？

富士見市社会保障をよくする会がそもそも講座



社会保障そもそも講座2014の第二回目の講座が、12月21日午後、南畑公民館で開催されました。師走の忙しい時期にもかかわらず24人が参加。

テーマは「子ども・子育て支援新制度で保育はどうなる？」、講師は埼玉県保育問題協議会事務局長の金子貴美子氏。金子先生は自治労連の保育所部会の部会長をされており、さいたま市の保育所で働いている現役の保育士でもあります。

児童福祉法24条の1項では市町村の責任をうたっていますが、2項では直接契約のことが書かれています(介護保険と同じ個人の契約という道筋)。相反する意見が書かれており、学者からも具体的な対応はどうなるのか疑問の声が出ているとのことです。

さいたま市の事例では、企業参入で保育所と学童保育が開所されたが、年度途中で廃園ということになった。その際24条の1項で市町村の責任をうたっているため、さいたま市は近くの保育所に子ども達を移し、親はそのまま就労継続が出来たということがあったそうです。

新しい制度で契約となった方は、急に廃園となった場合に市のかかわりはどうなるのでしょうか。とても心配です。

子ども園の場合は契約になりますので、条件が合わなければ断られる可能性が大とのことです。障害があるから、低所得だからという理由で断れないという保障はありません。あくまでも契約ですから。

講義はあっという間に終わりましたが、10人以上の方から質問が出て活発に意見交換が行われました。

(富士見市社会保障をよくする会  
事務局長 庄野 拓男)

## 思い出話、苦労話に花が咲き

年金者組合25周年記念、新春の集い



年金者合唱団の美しいハーモニーでオープン。「祝年金者組合25周年」薬玉が割れ大きな拍手が起こりました。結成25周年記念、新春の集いが1月13日埼玉共済会館で開かれました。

年金者組合は今から25年前の1989年、高齢者の暮らしを守り、最低保障年金を作ろうと産声を上げました。埼玉県でも同じ年県本部が発足しました。当時は12支部710人の組合員でした。その後今日まで「ひとりぼっちの高齢者をなくそう」「楽しみ7分、活動3分」の活動の中で61支部、1万人を越える組織に発展しました。

斎藤健執行委員長の「羽ばたこう未来に向かって」の挨拶の後、来賓の中央本部富田浩康委員長、埼労連柴田泰彦議長、川嶋芳男社保協事務局長、伊藤岳共産党国民運動部長の挨拶を受け、篠塚多助前委員長の乾杯のあと、和やかなひと時をすごしました。

創立当時の思い出話、苦労話に参加者は感慨新たでした。その様子は当日配られた「輝く明日へ」の中でグラビア写真、みんなの願い、生きがい、助け合い諸活動で語られています。年表、歴代役員表も先輩の足跡を偲ぶことができます。各ブロック紹介、前進座の立ち回りなども披露され140人の参加者は時のたつのも忘れ、思い出話とこれからの年金者組合の発展を誓い合いました。また組合員が助け合う活動の一つである年金埼玉共済会の25周年も祝いました。

今、安倍内閣のもとで社会保障、年金の切り下げが強行されています。行政不服審査を行いました。その不当性を明らかにするため裁判を行います。25年を機に年金を守る運動を大きく展開します。

(埼玉県本部執行委員長 斎藤 健)

## 「発達保障とアベノミクス」

### 障埼連12・23年末大学習会

障埼連は12月23日、埼玉教育会館で「発達保障とアベノミクス」をテーマに、日本福祉大学の近藤直子副学長・子ども発達学部教授、元「経済」編集長・経済評論家の友寄英隆氏を講師に招いての年末大学習会に120名が参加しました。

第1部は近藤直子氏の「発達保障の歴史から学ぶ～人権と発達保障の理念を活かした障害者福祉施策と実践を」。戦後の混乱期、近江学園での糸賀一雄氏の「障害児を発達の可能性、発達権の主体者」とした視点での実践がスタート。その後、「不就学を無くす運動」を通して確かめられ、乳幼児への取り組み、卒業後の作業所の実践があり、発達を親や関係者が目の当たりにして、人のつながりを広げ、運動が広がってくるという話に、参加者は大きくうなずいていました。親も周りも発達の主体者であり、「発達保障とは『できる』『できない』ではなく『自分らしい自分』を形成していくプロセス」として、社会の豊かな発展にもつながるものである、と話されました。

第2部は友寄英隆氏の「アベノミクスと新自由主義経済～人間の尊厳がないがしろにされない暮らしの経済へ」。「発達保障」と対比させる形で進められ、安倍政権は順風満帆ではない、日本共産党の大躍進、沖縄での自民完敗がそれを表している。人間の尊厳をないがしろにする『新自由主義』との闘いは、始まったばかり、障害者運動は「人類史の発展方向を示してきた」と論じました。「障害者の人権と暮らしを守り、発展させる運動は、思想・信条にかかわらず、また階級的な立場にかかわらず、あらゆる人に共感を得られる民主主義的な運動である」とし、障全協が掲げる障害者の4つの権利（「生きる権利」「学ぶ権利」「働く権利」「政治参加の権利」）のための運動は、とりわけ大事な意義をもっていると話を結びました。

感想では、近藤先生のお話の中の「しかできない」の評価ではなく、障害を固定的に捉えず「自分らしさ」を形成する支援の大切さに気付き、励まされました。友寄先生のお話では、自民党圧勝もがっかりすることはないと希望が持てました。レジュメと詳しい資料、やさしい語り口で、増税なしで福祉は拡



充できると心強く思いました。講演を聞いて、障害者運動の強みを確信しました。

(障害者の生活と権利を守る埼玉県民連絡協議会  
副会長 國松 公造)

## 「自治体消滅論を乗り越える自治体政策」を学ぶ

### 地方自治フォーラム・県民公開講座第1講を開講



午前中に県社保協の総会が行われた12月23日の午後、地方自治フォーラム・県民公開講座の第1講として京都大学の岡田知弘先生による「地方消滅論を乗り越える自治体政策」の講義がありました。地方議員、自治体職員、市民など70名が参加しました。

日本創生会議（座長：増田寛也元総務大臣）の地方消滅論は、菅官房長官との周到な打ち合わせの下に発表され、日本創生会議と官邸との共同作戦として展開されている地方再編、道州制導入戦略です。

岡田先生は、「安倍内閣の『地方創生』の推進は、増田レポートの『自治体消滅』論をベースにして人口減少社会の地方制度の在り方を検討するとして、解散直前に成立させた『まち・ひと・しごと創生法』に沿って地方中枢都市圏への経済機能や行政投資、サービス施設のさらなる選択と集中を推進するものであり、農山漁村はもちろん大都市の持続可能性をも失わせるものである」と批判しました。そして「その行き着く先は、以前から財界が『究極の構造改革』と称して政府に推進を要望していた道州制の導入です。少子化は、自然法則ではなく、『グローバル国家』型構造改革による青年層の不安定就業化・低所得化の帰結であり、今日の都市、地方の経済衰退は、大企業の海外シフト、農林水産・中小企業製品・エネルギー資源の積極的輸入、大型店の規制緩和などの構造改革政策、さらにこれに輪をかけた平成の大合併と三位一体の改革による周辺地域の産業衰退と人口減少によるものです」と地方創生戦略の狙いを明らかにしました。

いま大切なことは、国の政策を具体化することに関与するためされ済みの自治体衰退の道ではなく、今住んでいる住民のいのちと暮らしを守り、住民の安心と幸福実現を最優先する住民発着の自治体づくりであることが胸に落ちた講座でした。

(埼玉自治体問題研究所 渡辺繁博)

## 安倍「暴走」政治と、医療・介護の大運動

社会保障制度解体の道程が始まっている



総選挙の結果についてマスコミは「自民圧勝」と伝えましたが、安倍首相は不機嫌でした。その原因は、自民党よりも右寄りの改憲派の議席が減り、共産党が議席を増やしてしまったからです。安倍暴走政治とのたたかいは「事実上の延長戦」となっています。

憲法は平和主義、国民主権、基本的人権の保障といった3つの特徴を持つだけでなく、人権を守るための仕組みもきちんとあります。具体的には、第25条で生存権を、第26条で教育権を、第27条で勤労権を、第28条で団結権を保障しています。安倍政権はそうした憲法を否定し、人権を犠牲にすることで大国として世界へ羽ばたこうとしています。それは社会保障も全否定することです。そのことを明らかにすれば、安倍政権への反対の声が高まり、地域は変わるはずで

す。安倍政権は社会保障のすべて分野に攻撃をかけています。2012年8月に3党合意でつくられた社会保障制度改革推進法、そしてその進行について定めたプログラム法では、社会保障は「自助・共助・公助の最適な組み合わせ」によるとし、社会保障を自己責任を基調とした制度へと大転換しようとしています。医療・介護・年金は、「自助の共同化としての保険制度」、つまり私的保険に変質させようとしています。公的な社会保障ではなく、自己責任を中心とする社会保障制度解体の道程が始まっているのです。

### 医療と介護を抑制する仕組みづくり

2014年6月に強行採決された医療・介護総合法は、医療・介護一体での提供体制の縮小、社会保障費抑制の仕組みづくりの第一歩です。社会保障制度改革推進本部が今年1月13日に発表した医療保険制

度改革骨子には、患者・国民のさらなる負担増、医療費の抑制と国庫負担の削減が示されています。国保を突破口に医療保険制度を抜本改悪するため、平成30年度から都道府県が国保運営の中心的な役割を担うようにするとしています。真の狙いは医療・介護の抑制を都道府県に強制する仕組みづくりです。

社会保障、賃金と雇用、平和など、すべての分野がたたかひの正念場であり、切実な要求に根ざした運動の重要性がますます増えています。医療・介護の分野では、皆保険制度を壊して企業のもうける場をつくらうとしています。この分野は社会保障の根幹であり、ここで大運動をつくる必要があります。

また格差と貧困が拡大するなか、最低生活を守る運動、例えば「憲法25条共闘」をつくることも課題です。最初に生活保護と年金に攻撃をかけたのは、医療・介護から締め出された人たちが、生活保護への逃げ道を塞ぐためです。

### 不退転の決意で大運動をすすめよう

中央社保協は「いのち・暮らしまもれ—安心の医療・介護を実現する大運動」を提起しています。医療難民や介護難民、高すぎる国保料など、実態告発を強め、改善を求める新たな住民運動を全国でつくり出すこと、社会保障抑制の仕組みづくりとしての保険制度の大改悪を許さず、「憲法25条を基礎にした人権としての社会保障」の実現を求める国民運動の構築をめざすことが初年度の重点です。現在進められようとしている法律をつぶし、社会保障を守り、国に公的責任を果たさせることが最大のカギです。医療・介護に対する国民の要求は大きく、地域住民の生の声を持ち寄って、切実な要求にもとづく新たな県民運動をつくる必要があります。

いまの国会に提出されようとしている医療の改悪法案は、医療・介護の存亡にかかわる問題です。大運動を地域からつくっていくことができれば、この法改悪は止められます。安倍政権の暴走に対する激しい怒りから、労働者派遣法改悪の阻止、消費税10%の先送り、オール沖縄での知事選と総選挙の勝利など、変化が生じています。不退転の決意で運動をつくっていくときです。

### 国会行動埼玉デーに参加しよう

通常国会が開かれています。「社会保障をこわすな」「戦争する国づくり反対」などの声を埼玉選出の国会議員に届けます。毎月第1・3水曜日に行います。議員会館の入り口で通行証を渡します。

2月18日(水)10:30開会、衆院第2議員会館第1会議室

3月4日(水)10:30開会、衆院第1議員会館第6会議室